

認定こども園ってどんなところ？

香芝市立認定こども園のスローガン

いきいき・キラキラ・わくわく
笑顔あふれる認定こども園

—認定こども園は＜子どもがはじめて出会う＞施設です—

「生きる力」の基礎は、豊かな遊びと学びから

認定こども園は、就学前教育にかかわる教育・保育の専門機関です。

認定こども園は、家庭という環境から、子どもたちがはじめて出会う集団の場です。
保護者の就労の有無等に関係なく入園でき、教育・保育が受けられます。
また、保護者にとっても自由な語らいの場であり、子育て支援の場でもあります。



香芝市立認定こども園のめざす子ども像



豊かな感性をもち、
自分の思いをのびのびと
表現する子ども

友だちと仲良く遊び、
やさしさと思いやりの
心をもった子ども

いろいろな遊びに
親しみ、自ら進んで
工夫する子ども

心身共に健康で、
明るく生き生きと
活動する子ども

身近な自然に親しみ、
生命の尊さに気づき
大切にする子ども

香芝市立認定こども園では

認定こども園は、子育ての拠点として、地域とのつながりを大切にしながら「そこに育つ子ども」「そこで育つ親」を包括的に支援する施設です。

★ 教育・保育の基本に基づき「生きる力の基礎」を培います。

- ・ 「すべての子どもが最善の利益」を基に、心豊かにたくましく生きる力を育てるために、豊かな遊びと学びから、集団の一員として協力・協同しながら、生きる力の基礎となる心情・意欲・態度を育みます。
- ・ 「明日も行きたい」「こども園は楽しいところ」を大切に、さまざまな人とかかわりながら自分で考えて行動しようとする力を養います。
- ・ 健やかで柔軟な心や生活に必要な習慣、また、自分の思いや願いを自分の言葉で話したり、感じたことや考えたことを造形や歌・リズムで表現したりなど、「自分でしようとする力」につながります。
- ・ 先生や友だちや周りの人たちとのかかわりを通して、言葉で伝えることの喜びや人を信頼する心、感謝する気持ちややさしい心、社会的ルールを守ることや善悪の判断、我慢する気持ちなどを培います。



○ 香芝市立の幼稚園・保育所と交流をしています。

こども園・幼稚園・保育所が、共に地域に育つ子どもたちの健やかな成長を願い、就学前の教育・保育について、よりよい保育環境を生み出そうと交流をしています。手をつないでリズム遊びをしたり、園外に出かけたりして、楽しく交流しています。何度か交流するうちに、名前を呼び合っている子どもたちの姿も見受けられるなど、こども園・幼稚園・保育所との友だちの輪がひろがります。



○ 小学校と交流しています。

小学校の「生活科」や「総合的な学習の時間」などで交流しています。一日体験入学も行っています。こども園と小学校とはそれぞれの目的の違いを認識した上で、互恵性を求めた連続性と独自性を兼ね備え、関連性をもって自然な姿で児童・幼児に接し教育を行います。



○ 子育て支援のため地域の幼児教育のセンターとしての役割を担っています。

- ◇ 園庭開放・・・・・・・・・・就園前の子どもたちに園庭を開放しています。
- ◇ 未就園児交流保育・・・・親子で遊んだり、在園児と歌をうたったり、リズム遊びをしたりして楽しく交流保育を行っています。またこども園の行事に招待しています。
- ◇ 子育て相談・・・・・・・・・・子育てについての相談に応じています。一緒に子育てを考えましょう。
※詳細は各こども園にお尋ねいただき、ご遠慮なくお越しください。
- ◇ 預かり保育・・・・・・・・・・子育て支援の一環として、週3日（月・火・木）実施しています。
※詳細は各こども園にお尋ねください。



こども園の一日

時間	教育認定児童		保育認定児童			
	1号認定		2号認定			
	平日		平日		土曜日	
7:30~						
8:30~	登園・身支度	教育標準時間利用児	登園・身支度	保育標準時間利用児		
9:00~	共通経験 いろいろな遊び		共通経験 いろいろな遊び		共通経験 いろいろな遊び	
11:00~					給食	
12:00~	給食		給食		降園準備 順次降園	
13:00~	掃除・降園準備・降園	預かり保育	昼寝 (年齢により異なります。)	保育短時間利用児		
14:00~			おやつ			
15:00~	預かり保育開始 順次降園		降園準備・降園			
16:00~						
16:30~			延長保育開始 順次降園	延長保育		
18:30~						
19:00				延長保育		



教育時間終了後、降園する子ども（1号認定）や、長時間保育を日常的に経験する子ども（2号認定）がいます。
園での生活や経験と、家庭生活の連続性を大切にしながら進めていきます。

「幼児期」 今 大切なこと

○ やる気を育てましょう

おぼつかない手つきで着替えている子どもを見ていると、「早くしなさい!」と、つい手を出したくなりますが、子どもを見守るには少し時間のゆとりが必要です。手順を十分理解できていない子どもに「自分でしなさい!」というのは、無理なことです。それよりも、子どもの前でやり方を示したりして、「あとはできるかな?」と子どもに意欲をもたせたり、できたときは「よくできたね」と認めてあげましょう。小さいステップを積み重ねて、子どものできる範囲を広げてあげることが、やる気を育てることにつながります。

○ 触れ合いを大切に、家族の会話を増やしましょう

家族との会話を増やすことで、家族との絆が深まります。会話をするときは、触れ合いを大切に、子どもの顔を見ながら話しましょう。子どもは、話を聞いてもらうことで、安心して何でも相談できるようになります。幼い時から自分の思いを言葉で伝えたり人の話を聞いたりすることは、コミュニケーション力を育て、子どもの行動に望ましい影響を与えます。

○ あいさつをする習慣をつけましょう

あいさつをすることで、コミュニケーションが増え、人とのつながりができ、人間関係を築く出発点にもなります。大人が子どもの顔を見て、あいさつの見本をみせましょう。

(「ありがとう」「ごめんなさい」「おはよう」「おやすみ」
「いただきます」「ごちそうさま」「さようなら」など)



○ 手伝いをする習慣をつけましょう



手伝いをするすることで、家族との会話が増え、生活体験が豊かになり、生活力や判断力が身に付きます。家族の一員として役割や責任が果たせるように、子どもができそうなこと、身近なこと、興味がありそうなことから行いましょう。お子さんに「お手伝いできた」「役に立った」という喜びを味わわせてあげてください。そして、手伝いの後は「ありがとう」と言ってほめてあげましょう。

○ 手をつないで登降園、おうちの方の温もりが伝わります

長い子育ての中で、お子さんと手をつないで歩ける時期は、本当に限られています。晴れの日ばかりでなく、雨の日も風の日も暑い日もあり本当に大変ですが、手をつないで歩けるこの幼児期を家庭においても大切にしてください。お子さんに、楽しくお話をしてあげましょう。そして、歩きながら信号の見方や横断歩道の渡り方、道路の歩き方などを、その場で繰り返し教えてあげてください。「こども園の送迎は大変だったけれどよかった」と思っていたく日がきつとくるでしょう。

「親の後ろ姿を見て子は育つ」といいます。子どもは、大人の行動をととてもよく見ています。よいことも悪いことも、丸ごと受け止めて育ちます。お家の皆様方は、子どもたちにとってよいモデルとなりましょう。